令和６年能登半島地震「新たな復興計画」の策定に向けた
市長との対話集会　対話要旨（主なもの）

日　時：令和８年 10 月 30 日（金）午後７時～午後８時 30 分
場　所：伏木コミュニティセンター ３階 多目的ホール

【発言】
以前から、隣の空き家が倒壊しそうなため、市に相談してきたが、市では対応してもらえず、結局、倒壊に至った。物件の関連情報や、代執行者権限を持っている市が、空き家倒壊まで何もできなかった。空き家対策についての見解をお聞きしたい。
【回答】
空き家対策は大きな課題であると認識しているが、市内全域にかなりの数の空き家が存在しており、すべてを市で対応することは難しい。この点は、国にも対策を要望していく。
（発言者のケースでは）市で空き家を除却する場合もあるが、条件が合わなかった。ご不安な点については、引き続き話をお聞きしたい。

【発言】
「新たな復興計画」で見据える 40 年後というと、一世代先の話になる。人材育成や、地域外から人を呼び込むことにもっと注力してはどうか。外から来た人に住んでもらえるような、魅力あるまちづくりに取組むべき。
【回答】
本当にそのとおりだと感じる。井波地域など、近隣にも参考になる事例はある。若い方が主導で空き家の利活用が進んでおり、こうした事例を参考にするなどして、伏木でも機運を高めていけたらと思う。復興会議でも意見が出ていたが、民間主導の取組みは大事であるし、そうなるよう、市としてもしっかりと取り組んでいきたい。

【発言】
クルーズ船について、住民が伏木を PR するチラシを配布しようと思っても、関係者しか万葉ふ頭に入れない。行政側の事情で難しい面はあると思うが、やりたいのにやれないのはどうなのか。せっかくクルーズ船が伏木に来るので、もっと伏木にお金をおとしてもらう、伏木の良さを感じてもらう取組ができないか。
【回答】
クルーズ船については、セキュリティの関係で立ち入りが制限されており、ご理解をいただきたい。市としても、乗客に伏木を巡ってもらえるよう PR はしているほか、自分たちのチラシで PR をしたいとの意向があれば、市に話をしてもらえれば、ぜひ協力させていただく。

【発言】

今年７月と 10 月にクルーズ船が寄港した際に、大学生にも手伝ってもらい、伏木の飲食グルメマップを、万葉ふ頭内で配布した。マップを持ってお店を訪れたクルーズ船客も多く、たいへん伏木の飲食店の方からは好評であった。そうした活動を、住民の方とも一緒に取り組んでいくことは大事だと思う。

また、クルーズ船を降りた後の移動について、地域でシャトルバスを運行させたいと考えている。今年は企画が実現しなかったが、ぜひ来年度は実現したい。

（回答なし：ご意見を承る。）

【発言】

昨年８月の対話集会と比べると雰囲気が良く、復旧に対する気持ちが住民にも伝わっていると感じる。

大雨対策として、内水氾濫を防ぐための排水機場を伏木に整備してほしい。また、現在の災害復旧工事において、伏木の雨水対策の想定雨量は１時間当たり何ミリか。

【回答】

雨水対策は重要な課題であると認識している。ただし、整備しようと思うと、何十億という費用が必要である上に、市内の他地域でも同様の対策が必要な状況であるため、なかなか簡単ではない。市だけで対応するには限界があるため、今回は、止水板の設置補助を実施した。

現在の雨水対策での想定雨量は、1 時間当たり 40 ミリである。

【発言】

現在、伏木で地区防災計画の策定を進めているが、学校が閉校になった際の避難所の機能について、現時点でどのように考えているのか。津波となれば高台に避難することになるため、伏木高校、伏木中学校、伏木小学校へ避難する人が多いと思うが、高校が閉校となり小学校も統合される。

また、クルーズ船について、新型コロナウイルスが流行する前は入港歓迎イベントが実施されていた。そのような入出港時に地域が盛り上がるような取組みができないか。

【回答】

避難所については、市でも検討を行っている。伏木高校については県の関係ではあるが、みなさんの気持ちに寄り添うような形で考えていきたい。

クルーズ船については、多くの乗客を乗せているので、伏木のまちを歩いてくれれば消費もしてくれるし、効果は大きいと思う。新型コロナ感染症や震災の影響により、安全面を考慮して以前に比べて立ち入りは制限されているが、市としても、観光客に伏木を巡っていただきたいと思うし、皆さんの気持ちにこたえたいと思っている。

【発言】

今年７月に熊本で地震が発生した際、10 年前の熊本地震以降に液状化対策をした地域としなかった地域で被害状況に大きな差が生じたと聞いている。熊本市と情報交換を行うなど、連携して、本市での液状化対策の参考にしては。

【回答】

熊本市とは情報交換を行っている。現在、検討を進めている地下水位低下工法は、熊本市と同じ工法であるが、土の構造が違うため、今の対策が伏木で有効なのかどうか、今後、検証を進めていく。伏木コミュニティセンターの１階でも、液状化対策に関する展示コーナーも設置しているので、ぜひご覧いただきたい。

【発言】

「希望の小道」の構想について、維持管理は誰が行うのか。また、土地の所有はどうなるのか。

【回答】

その点は課題であることは確か。色々な所有者がおり、今後整理していきたい。構想は素敵だと思う一方で、全面的にこれができるのかどうか、うまく循環していけばよいが、人口減少の大きなトレンドの中で反転攻勢をかけられるのか、その確証はまだない状況である。

【発言】

「希望の小道」の構想について、まちの形として、死角が増えるなど防犯面で不安がある。実際に整備する際は、防犯に関する視点を取り入れてほしい。

【回答】

構想を進める際には、防犯面についても配慮したい。

【発言】

国分地区を、もっと集客に向けて整備しては。国分から見る立山連峰の景観は素晴らしいし、デートコースとしても活かせる。夏になれば海水浴で人が来てくれる。女岩が有名だが、男岩も、もっと工夫をすれば人が来てくれるスポットになる。

【回答】

貴重なご意見として承る。

【発言】

伏木外港の整備にあわせて、国分浜にかけて緑地帯を整備する県の計画があったと思うが、今も存在しているのか。実現すれば、伏木の大きな魅力の一つになる。

【回答】

現在も県の港湾計画に位置付けられている。

【発言】

伏木港付近は現在立ち入り禁止となっているが、昔のように釣りなどができる水に親しめる場所にしてほしい。例えば、期間限定の釣りイベントで開放日を設けるなど。

【回答】

貴重なご意見として承る。港湾の管理上、立ち入ることは難しいが、できることとできないことを考えていきたい。

【発言】

色々な話が出ているが、800億も負の財政をかかえている高岡市で、やれる可能性がない。夢物語だけ言っているのでは。やる気が感じられない。

【回答】

ご意見として承る。

以上